



# IT部門向け Employee Choiceガイド

Apple at Work



# 概要



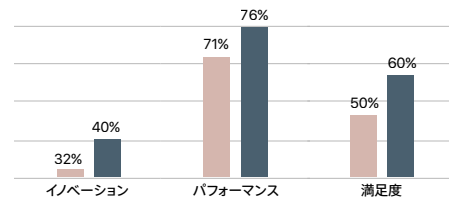
## 新しい人材は自分たちが使い慣れたものを希望

PwCの調査によると、ミレニアル世代の78パーセントは、自分たちが使い慣れたテクノロジーを職場で利用できれば、より効率的に仕事ができると考えています。<sup>1</sup>



## 4人のうち3人の社員がAppleを選択

JamfがEmployee Choiceについて最近行った調査によると、およそ4人のうち3人の社員が、選べるのなら職場でAppleを使いたいと回答しました。<sup>2</sup>



## 選択肢を提供すると社員の貢献度が向上

Gensler Workspace Studyによると、社員に選択肢を提供することが、イノベーション、仕事のパフォーマンス、仕事に対する満足度に大きく影響する可能性があります。<sup>3</sup>

企業が競争力を維持するには、仕事に最適なツールを社員に提供することが非常に重要です。

Appleの製品はシンプルで直感的に使うことができるだけでなく、パワフルかつセキュアで簡単に導入できるため、ビジネスに最適です。Mac、iPad、iPhoneをはじめ、すべてのApple製品はクリエイティブな問題解決を可能にし、スムーズな体験を提供して社員の生産性を高めます。また組織全体には、社員が使い慣れたツールを使うことで、意欲の向上、当事者意識の芽生え、社員の定着とロイヤルティの向上というメリットが得られます。

世界中の革新的な企業は、このニーズを認識し、職場全体で社員がApple製品を選択でき、最大限に活用できるようにしています。これを実現するため、企業はテクノロジーを採用、調達、プロビジョニングするための新しいモデルを採用し、最新の方法で社員の体験全体を管理しています。

モノリシックなシステムイメージ、複雑なレガシーアプリケーション、まとまりのないサポートプロセスの時代は終わり、エンドユーザーを中心とするプロセスによってIT部門への全体的なインパクトを抑える時代になっています。この新しいモデルは、すでにiOSを採用している企業が、すべてのApple製品へと対象を拡大することによって社員の力を最大限に引き出すというベストプラクティスに基づいています。

本書は、みなさんの組織が新しいリソースとツールを使ってApple at Workプログラムを構築するためのガイドです。これまでになく簡単な方法で、Apple製品を使って仕事をするという選択肢をすべての社員に提供できます。IT部門は、職場でAppleデバイスをサポートするためのベストプラクティスと共に、社内環境でこの新しいモデルを活用する方法を学ぶことができます。本書には、その他の技術情報のほか、社内コミュニケーション、トレーニング、サポートなどに役立つ、あらゆるリソースへのリンクが含まれています。

このガイドは主にIT部門を対象としていますが、人事、調達、財務、情報セキュリティなどのチームメンバーにとって有用な情報も含まれています。選択肢の提供は、このようなグループにとってもメリットとなる可能性があるため、プログラムを成功させるには各部門の連携が非常に重要です。

Apple at Workプログラムを構築するときは、法人向け販売店を通じて、またはAppleに直接問い合わせ、必ずAppleの担当チームと協力してください。IT部門は、社内外の関係者と社内プロジェクトチームとをつなぐ中心的な役割を担います。これらのパートナーには、このプロセスをサポートするための豊富な専門知識と経験があり、必要に応じてみなさんの会社と適切なリソースを結び付けることができます。



# Appleへのアクセスを提供する新しいモデル

今日のIT環境はますます複雑になっていますが、Appleデバイスをサポートするプロセスはどんどん簡単になっています。Appleが提供するプログラムとサービスによって、IT部門のスタッフはiOSとmacOSを簡単に導入しサポートできます。デバイス管理のための他社製ソリューションとチャネルパートナーのサービスを組み合わせることで、IT部門は、必要な制御をシンプルな方法で実現できます。

世界中の企業が職場へのApple製品の採用を拡大しています。設定からデバイス管理やサポートまで、5つの原則に従えば、Appleのデバイスを簡単に導入し、すべての社員に選択肢を提供できます。



社員にフォーカスした  
体験



柔軟な財務モデル



最新のプロビジョニングと  
導入



パーソナライズされた設定と  
アプリケーション環境



サポートの責任を共有

Appleのハードウェアは残存価値が高く、IT部門やサポートのコストも削減されるため、これらの要素を組み合わせると財務的な影響を抑えることができます。コスト削減に加えて、社員の意欲と生産性を引き出せる可能性もあります。このことは、Appleの製品を採用し社員による選択を可能にするメリットを主張し、同意を得る上で説得力ある根拠になります。

チャネルパートナーや通信事業者、Appleの担当チーム、およびパートナーのエコシステムと協力すれば、このモデルの採用がさらに簡単になります。法人向け販売店や通信事業者パートナーは、デバイスの管理と導入、ヘルプデスクのサポート、資金調達、社員向けコミュニケーションなど、様々なサービスを通じて、組織内でApple at Workプログラムを設定するためのサポートを提供しています。





## 社員にフォーカスした体験

これまで多くの組織では、職場で使用するテクノロジーの購入判断はIT部門が一元的に行い、企業側により決定されてきました。多くの場合、事前に選定したデバイスをまとめて注文し、必要になるまで倉庫で保管し、すべての社員に一齐に配布するという方法がとられました。唯一の代替策がBYOD (bring-your-own-device) プログラムでした。ただしBYODプログラムでは、IT部門が多数のバージョンのソフトウェアとハードウェアを同時に管理しなければならず、複数の提供元からデバイスを購入し、ばらばらのツールですべてを管理する必要がありました。

今日では、企業がEmployee Choiceプログラムを提供することが、より優れた方法となっています。テクノロジーに対する要件は社員一人ひとり異なり、デバイスのタイプ、アップグレードサイクル、サイズ、色の好みも異なるからです。Apple製品をサポートし、iOSとmacOSの両方の選択肢を用意することによって、IT部門は、会社の標準を維持しながら、社員それぞれに自分の仕事に適した製品を選ぶ権限を与えることができます。また、新しい財務モデルを導入すると、会社として望ましいコスト構造を維持したまま、それぞれの社員の希望に応じた柔軟性を提供できます。

社員にフォーカスした体験は、購買だけでなく、コミュニケーションやサポートといったほかの領域にも広がります。IT部門は、社内でプログラムを開始する方法からトレーニングやヘルプデスクの運営方法まで、プログラム作りにユーザーに関わってもらうことを考える必要があります。プロセスにユーザーを含めることで、プログラムが初日から効果的に機能するようになり、チームの関係者がプログラムの戦略的目標を維持するためにも役立ちます。

「何を使うかを社員に選んでもらったところ、圧倒的多数の社員がApple製品を選びました。より生産性を高め、社員が望む方法で仕事ができます」

Capital One CIO  
**Robert Alexander氏**

### ベストプラクティス

- iOSまたはmacOSを使っている社員に話を聞き、職場の現状を理解します。このような話し合いは、アーリーアダプターとなってプログラムを提唱するチームや社員を把握するために役立つ場合があります。
- 販売店またはAppleと協力し、デバイスを選択するための社員向けデバイスポータルを設定します。これには、プログラムのアップデートや資格情報だけでなく、Appleのすべての製品とアクセサリを含めることができます。
- リーススケジュールにそって、利用条件およびアップグレード頻度を決定するために使用できるビジネスルールおよびロジックを決めます。補助金や給与天引きによる個人負担を含む、様々な支払いオプションを検討します。
- 社員向けの全体的な道すじを計画し、必要な通知を作成します。プログラムの開始、ポータルの場所、アップグレード時に利用条件を連絡する方法について、社員への通知方法を決めます。

### リソース

ITとHR部門がEメールコミュニケーションと社員向けポータルを構築するためのリソースをダウンロードする。  
[ダウンロード ↓](#)



## 柔軟な財務モデル

以前は、低価格のWindowsパソコンを供給するサプライヤからの働きかけがあり、そのためにテクノロジーの購買担当者が価格を最優先の決定要素とみなすことがありました。しかし、ハードウェアの信頼性の問題やサポートコストの増大によって、そうした製品の価値は急激に低下することがありました。Apple製品はハードウェアとソフトウェアが一緒にデザインされているため、非常に信頼性が高く、使わなくなった時点でも、多くの場合は高い残存価値を確保できます。Device as a Serviceのような新しいリースモデルと財務モデルを組み合わせることで、より多くの企業が最小限の初期費用でApple製品を利用できるようになります。

補助金モデルの活用を選択している企業もあります。社員が給与天引きでデバイス価格の一部を負担し、デバイスの業務利用が終了した時、リースを買い取るモデルです。多くの企業は固定費として扱うことを望むため、ベースラインの構成は社員一人ひとりのニーズに合わせ、一方、社員に対しては自身が管理するサイクルで希望する構成にアップグレードできる柔軟性を持たせることができます。また、社員が自分のデバイスに個人的に投資することで、自分のものであるという意識が高まりデバイスを大切に扱うようになるため、ハードウェアの修理コストを削減できます。

これはまったく新しい調達および財務モデルです。何を購入するかを社員が選び、企業はコストを大幅に増やすことなく各デバイスのライフサイクルについてシームレスなモデルを持つことになります。すべてのコンピュータをライフサイクルの中で同じ方法で管理できるため、修理と下取りはすべて自動化され、新しいリース契約に再統合されます。

## 543ドル

高い残存価値と低いサポートコストにより、IBMは購入したMac 1台につき最大543ドルを節約しました。<sup>4</sup>

### ベストプラクティス

- 社内の関係者と協力し、現在社員が使っているデバイスのTCOを評価します。これには、初期費用、残存価値、現在のITサポートコストを含めます。プログラムで利用するAppleデバイスについても、同様のモデルを構築します。
- 調達部門と財務部門の担当者と一緒に、リースオプションおよび下取りオプションを検討します。調達部門と財務部門の担当者にこの新しいモデルのメリットを理解してもらい、個人負担を利用するかどうか検討します。
- 販売店と協力し、Apple製品を新しいDevice as a Serviceとして提供することを検討します。これらのプログラムは、多くの場合複数の製品、デバイス管理コスト、およびサポートを含めて構成されます。
- 社員向けポータルを活用してデバイスの注文を促すことについて販売店のチームに相談し、そのプロセスに給与天引きを組み込む方法を検討します。Appleが開発した新しいEmployee Portalプラットフォームが役立つ場合があります。

### リソース

コストの評価について詳しい情報を確認し、新しい社員向けポータルプラットフォームについてAppleのサポートを受ける  
[お問い合わせ >](#)

新しい財務プログラムとApple Financial Serviceのサービス内容を確認する  
[さらに詳しく\(英語\) ↗](#)



## 最新のプロビジョニングと導入

Windowsパソコンのプロビジョニングと導入に使われていたレガシーモデルは、イメージ作成ワークフローを中心としたもので、組織はソフトウェアの標準セットを持つ必要がありました。他社製のセキュリティソフトウェアによってエンドユーザー向けの機能が停止することが一般的なため、エンドユーザーの生産性向上の妨げとなっていました。ソフトウェアが進化するにつれて、システムイメージを作成し維持するプロセスには多大な労力が必要となり、重要なセキュリティアップデートを追加して最新の状態を維持することが困難になりました。

Apple製品なら、IT部門がデバイスに触れることなく社員に配布できます。IT部門はワイヤレスでポリシーとアプリケーションを構成および管理し、各デバイスをさらに管理することもできます。デバイスに組み込まれたセキュリティツールとソフトウェアアップデートによって、ユーザーの働き方に影響を与えることなく、企業データを継続的に保護できます。社員はデバイスを箱から出して電源を入れ、必要に応じてパーソナライズできるので、自分のものであるという意識が高まり、デバイスのライフサイクルにわたり大切に扱います。

この最新のプロビジョニングモデルを可能にしているのが、Appleのモバイルデバイス管理 (MDM) フレームワークと Device Enrollment Program (DEP)、他社製MDMソリューションです。このようなサービスを利用すると、macOSデバイスまたはiOSデバイスをIT部門の作業なしに自動的に設定し、メンテナンスや企業ポリシーを簡単に遵守することができます。多くの企業がすでにこのモデルを採用して職場でiOSデバイスをサポートしています。そして、同じ体験をすべてのApple製品に適用できるようになりました。このプロセスを活用することで、ITコストの削減と生産性の向上が実現します。

### ベストプラクティス

- 既存のiOS導入体験から学んだことを活用できるかどうか検討します。iOSをサポートする取り組みの結果として、多くの組織はすでにMDMを使用しています。Macのサポートを追加する際には、この体験を活用します。
- Jamf、VMware、MobileIronなど、MDMの様々なオプションを評価します。これらのソリューションは、iOSだけでなくMacもサポートしています。組織のインフラおよびサポートのニーズを考慮し、最適な機能を判断してください。
- まだAppleのDevice Enrollment Programを使っていない場合は、販売店またはアカウントチームに開始方法を問い合わせてください。会社が購入するものがDEPアカウントを経由し、適切にMDMに割り当てられるようにします。
- 企業データの保護には、他社製ソリューションやコンテナソリューションを使うのではなく、macOSおよびiOSに組み込まれているセキュリティツールを活用します。利用可能なソリューションおよびデバイス管理ポリシーの構成方法を確認してください。

### リソース

Apple Device Enrollment Programについて詳しく確認し、ガイドをダウンロードする [さらに詳しく](#) ➤

macOSデバイスの導入と管理の基本を確認する [ガイドをダウンロード \(英語\)](#) ↓

iOSデバイスの導入と管理の基本を確認する [ガイドをダウンロード](#) ↓

iOSデバイスで企業データを管理するプロセスについてさらに詳しく [ガイドをダウンロード \(英語\)](#) ↓





## パーソナライズされた設定とアプリケーション環境

革新的な組織は、社員が利用できるアプリケーションのセットを制限するのではなく、社員がデバイスをパーソナライズし自分の仕事環境をデザインして、生産性を高めています。また、アプリケーションの更新とテストに関する新しいアプローチによって、Apple製品と重要なエンタープライズソフトウェアとの互換性を確保する組織が増えています。

AppleはMicrosoft Office、Microsoft Exchange、Google G Suiteなどの主要なアプリケーションおよびサービスを強力にサポートしているので、だれでも簡単に生産性向上とコラボレーションのための基本的なワークフローを実現できます。また、社員がセルフサービスツールを使っておすすめのアプリケーションや自分に合った効率化のためのアプリケーションをインストールできれば、働く環境を自分で構成し、より生産性を高めることができます。既存のエンタープライズアプリケーションを引き続き更新しながら、特定のソフトウェアニーズがあるチームやニッチワークフローのあるチームでもAppleを選択することができます。

基礎となるiOSおよびmacOSのセキュリティアーキテクチャによって、個人データと企業データはデバイス上で必要に応じて共存でき、しかも別々に管理されます。iCloudにすべてを保存することは企業ポリシーに違反する場合がありますが、多くの企業がFaceTimeやiMessageなどの特定のサービスを有効にし、iCloudのその他の設定はMDMを通じて管理しています。これらのポリシーを透明化することで、社員は、企業データを保護し漏洩を防ぐ方法をより詳しく理解できます。これが、アプリケーションと設定のパーソナライズを可能にして社員の生産性を向上させるアプローチです。

### ベストプラクティス

- 既存のコラボレーションのためのアプリケーションと生産性向上アプリケーションが、macOSやiOSとどのように連携するか理解します。レガシーアプリケーションのデベロッパと共にアプリケーションを更新する取り組みを進めますが、組織に最も大きなインパクトを与えるものに焦点を当てます。
- 新しいアプリケーションやヒントを定期的に提案し、社員に仕事環境のカスタマイズを促します。互換性の問題で導入が遅れないように回避策や代替策を伝えて、需要の高いものから優先的に更新されるようにします。
- 社員が職場のデバイスでApple IDとiCloudをどのように使うことができるかを決定します。すべてを禁じるようなポリシーを設定するのではなく、プロセスからユーザーに参与してもらい、ユーザーがリスクを理解できるようにします。
- MDMによって提供されるセルフサービスポータルを使用して、各デバイスにアプリケーションを配布することを検討します。AppleのVolume Purchase Program (VPP) を使ってApp Storeのアプリケーションを提供しますが、社員の間でライセンスの所有者が変わるときにメンテナンスを行います。
- ソフトウェアベータ期間にデベロッパのチームと社員が継続的にテストを行い、利用予定のソフトウェアとの互換性を確保します。新しいバージョンのソフトウェアが利用できるようになったら、ユーザーがデバイスとアプリケーションを最新の状態に維持できるようにします。

### リソース

Apple Volume Purchase Programについて詳しく確認し、ガイドをダウンロードする [さらに詳しく >](#)

カテゴリ別におすすめのビジネスアプリケーションを見る [ガイドをダウンロード \(英語\) ↓](#)

ベータ版テストおよびソフトウェアのライフサイクル管理についてさらに詳しく [ガイドをダウンロード ↓](#)

「会社が提供するツールで社員に素晴らしい体験をしてもらうことにより、社員の生産性と革新性を最大限に高めることができます」

Capital One 副社長  
**Jennifer Manry氏**



## サポートの責任を共有

従来のWindows/パソコン環境では、通常、社員が問題に直面するたびにITヘルプデスクの指示に従っていました。社員は通常、デバイスの選択や設定に関与していなかったからです。また、ハードウェアとソフトウェアは常に信頼できるとは限らなかったため、組織は問題や頻繁なダウンタイムに直面していました。一方、Apple製品は社員が使い慣れているため、自分自身でサポートできることが多くなります。最高クラスのハードウェアとソフトウェアによって、社員がIT部門にサポートを依頼する必要が少なくなり、サポートを依頼された場合でも、新しいヘルプデスクは社員が自分で学び成長できるよう促します。

AppleCareと統合されたヘルプデスクに加えてセルフサポートを活用するのが、組織内でユーザー中心のサポートプログラムを提供する最適な方法です。ただし、セルフサポートの情報や文書だけに集中するということではありません。プロセスにおいてユーザーの関与を促し、サポートを依頼する前に自分で問題を調べてもらうという意味です。これは、ヘルプデスクの機能を再考することでもあります。各サポートチケットの目標は常にユーザーが自分の問題を解決するのを支援することであり、満足度が主な指標となります。

サポートの責任を共有することにより、社員のダウンタイムを短縮でき、サポートコストとサポート担当スタッフの全体的なフットプリントを削減できます。さらにサポートを必要とする組織には、AppleCareプログラムが社内サポート構造を補います。社員から挙がるトピックの多くはAppleCareでカバーできるため、組織のヘルプデスクは組織固有の問題に集中できます。また、IT部門向けのサポートでは、Apple製品の統合方法を理解し、必要な場合は特別な支援を受けることができます。

5%  
Macユーザー

40%  
Windowsパソコンユーザー

IBMにおいてユーザーがサポートを必要とする割合は、Windows/パソコンでは40パーセント、これに対してMacはわずか5パーセントでした。<sup>4</sup>

### ベストプラクティス

- 社内サイトやトレーニング情報を作成するときは、Apple製品に関する既存のサポート文書を活用してください。Appleのスターターガイドに、iOSとmacOSの主な機能とアプリケーションのトレーニングが用意されています。
- 掲示板や対面サポートを通じて、ピアツーピアのコミュニティを確立します。特定ワークグループのフィードバック収集を主導したり、社員が必要とするときに適切なパスを通じてサポートを得られるよう促したりする役割を担ってもらいます。
- iOSデバイスとmacOSデバイスのためのApple専用サポートデスクを設置することと、そのための人材確保を検討してください。顧客満足に重点を置いて優先度を定め直し、一般的なチケットは主要デバイスを管理するエンジニアリングチームに回します。
- 電話サポートを物理的なヘルプデスクやTech Barで強化することを検討してください。ハードウェアとソフトウェアの問題に対応し、アクセサリの配布を行うテクニカル担当者を配置します。新しいデバイスの導入時またはアップグレード時には、テンポラリーで設置することも検討してください。
- 様々なAppleCareプログラムを調べ、重要と思われる機能を理解します。社員がAppleCareチームから受けられるサポートについて、また、IT部門がAppleCare for Enterpriseなどのサービスをどのように利用できるかについて正確に把握してください。

### リソース

IT部門向けのAppleCareサポートプログラムについてさらに詳しく  
[さらに詳しく >](#)

社員にAppleサポートのサイトとアプリケーションを活用してもらう  
[さらに詳しく >](#)



# 今すぐ始める

Appleへのアクセスを提供するための新しいモデルと導入のベストプラクティスを理解したら、Apple at Workプログラムを今すぐ始める方法を理解する必要があります。新しいモデルを適切に採用するには、まず社内のIT部門がApple製品の導入とサポートに関するあらゆる側面を管理できる必要があります。

社員によるiOSデバイスの使用は、ほぼ10年にわたり多くの企業でサポートされてきました。そのため、それらの企業がiOSをサポートする場合のベストプラクティスと原則を、一人ひとりの社員にMacへのアクセスを提供する場合にも広く適用できます。

社内向けにプログラムを構築するには、3つの基本的な手順があります。

## 1

- 準備する
- チームを編成する
- インフラを評価する

## 2

- 管理ソリューションを確立する
- セキュリティ評価を実施する
- 導入ワークフローをテストする

## 3

- 導入開始のために準備する
- 継続的に改善を行う
- 広く知らせる



# 1

---

## 準備する

プログラムについてのビジョンを確立し、組織がAppleを採用し社員による選択を導入する理由を説明します。プロセスを通して、すべてのチームに対してそのビジョンを示します。プロジェクトのタイムラインを作成し、パイロットをいつ実施し、その他の組織についてどれくらい迅速に拡大できるかなど、各フェーズを確立する目標とマイルストーンを定めます。

## チームを編成する

多くのチームは、エグゼクティブスポンサーを見つけることから始めます。IT部門内でプログラムオーナーとプロジェクトリーダーを決め、テクニカルアーキテクト、セキュリティ担当リーダー、その他のエンジニアリング担当者など、実行チームのメンバーを組みます。

人事、財務、調達など、IT部門以外の担当者のほか、販売店、パートナー、ベンダーチームのテクニカルリーダーもチームに含める必要があります。社員はプロセスにおいて役割を担い、最初から関与する必要があります。現在のユーザーに依頼し、プログラムを進めながら継続的にフィードバックしてもらいます。

## インフラを評価する

優れたインフラは、あらゆるApple at Workプログラムにとって不可欠な要素です。macOSとiOSがサポートする標準は共通していることが多いため、現在の環境がすでにAppleのデバイスに対応している可能性があります。まず、現在の社内インフラを評価するところから始めてください。既存のWi-FiソリューションとVPNソリューションが、macOSとiOS、およびMicrosoft ExchangeやActive Directoryなどのその他のサービスとどのように連携するか分析します。

中心となる生産性向上のためのアプリケーションやコラボレーションのためのアプリケーション、ワークフローをテストし、大多数のユーザーの重要なタスクがカバーされることを確認します。企業ディレクトリやイントラネットなど、広く使用されている社内アプリケーションの互換性を確認します。その後、少数のユーザーに生じる可能性のあるレガシーアプリケーションの互換性の問題を分析し、需要に基づいて更新作業の優先度を判断します。

# 2

---

## 管理ソリューションを確立する

Jamf、VMware、MobileIronなど様々な他社製のデバイス管理ソリューションを利用できます。macOSとiOSはデバイス管理について多くの同じフレームワークを共有していますが、これらのソリューションは管理機能、オペレーティングシステムのサポート、価格体系、ホスティングモデルに若干の違いがあります。統合、トレーニング、サポートのサービスレベルが異なる場合もあります。

使用するソリューションを選択した後、IT部門はプロファイルを簡単に作成して、ユーザーアカウントの管理、システム設定の構成、制限の強化、パスワードポリシーの設定を行うことができます。こうした設定はすべて単一のデバイス管理ソリューションから実行可能です。IT部門のスタッフは、macOSデバイスとiOSデバイスを企業環境に安全に登録し、設定やアップデートをワイヤレスで行い、アプリケーションを導入し、ポリシーのコンプライアンスを監視し、デバイスを照会し、管理対象デバイスをリモートでワイプまたはロックするといった操作ができます。

## セキュリティ評価を実施する

管理ソリューションを特定したら、セキュリティ戦略を作成し、セキュリティ担当リーダーと一緒に社内レビューを実施する必要があります。macOSとiOSは高度なセキュリティ機能を備えているので、最初の手順としては、各デバイスの継続的な監視、暗号化、アップデートを可能にする様々な内蔵機能を理解することから始めます。

基礎となるセキュリティテクノロジーやサービスに関するAppleの文書を必要な社内チームと一緒に確認し、プラットフォームに何が組み込まれているか、様々な機能を社内の環境でどのように使用するかを理解します。macOSデバイスとiOSデバイスのセキュリティを確保し企業データを保護するために、管理ソリューション内で使用するツールとポリシーを定義します。デバイスのプロビジョニング後も、同じチームが引き続きポリシーの監視とアップデートを行う必要があります。

## 導入ワークフローをテストする

管理ソリューションとセキュリティポリシーを整備したら、導入ワークフローをテストして問題がないか確認します。様々なユーザーの場所、デバイス構成、アプリケーションやインフラを考慮し、幅広いシナリオを実行します。新入社員がAppleデバイスを選択した場合と、別のデバイスを使用していた社員がAppleに移行することを決めた場合の両方の体験を理解します。主な問題を文書化し、ヘルプデスクチームがサポートできるよう準備を整えます。

## リソース

---

Apple製品の導入について詳しい  
技術情報を入手する  
[macOS導入リファレンス\(英語\)](#) ↗  
[iOS導入リファレンス\(英語\)](#) ↗

さらに詳しく  
[ガイドをダウンロード\(英語\)](#) ↓



# 3

---

## 導入開始のために準備する

テストが完了したら、社内への導入を計画します。ブログ投稿やビデオを使って関心を持ってもらい、Apple製品の利用を開始する前にどれくらい需要があるか判断します。チームまたは個人負担によりデバイスを使用する社員に影響する価格やコストの情報をはじめ、様々なデバイスの利用条件とオプションを明確に伝えます。最後に、成功の評価基準を定義し、プログラムの導入前に、社員の満足度と生産性の基準値を測定するためユーザーアンケートを行うことを検討します。

## 継続的に改善を行う

プログラムの開始後、エンジニアリングチームは継続的にヘルプデスクの活動をモニタリングし、改善点があるかどうかを把握して、必要に応じて新しいソリューションを作成する必要があります。社員による選択の価値、およびそれが会社に与える影響を様々な組織が認識できるように、社内で継続的にプログラムを推進してください。既存ユーザーが成功するように、トレーニングとサポートに必要なツールを提供します。プログラムや利用可能な新しいリソース、ヒント、アプリケーションについて、継続的に最新情報を提供してください。オペレーティングシステムごとに新規リリースがあれば社内でテストし、互換性の問題があった場合は継続的にモニタリングを行い、様々なレガシーシステムの所有者と一緒に更新作業を実施します。

## 広く知らせる

使い始めた後も、プログラムや組織に与える影響について引き続き社員と経営陣に広く伝えるようにします。優秀な人材を獲得するため、有望な社員と一緒に、プログラムについて社外に発信することを検討してください。また、社員の満足度や生産性などの指標について追加測定を実施し、プログラムの成果を示します。ヘルプデスクのチケット量、主な問題、全体的なコストについてデータを収集しモニタリングを行うと、プログラムの拡大に伴う将来的な投資や成長を裏付けるために役立ちます。最後に、販売店やAppleの担当チームと協力して、みなさんがどのように困難を克服したか社外に伝え、ほかの企業がみなさんの成功から学べるように支援してください。

## リソース

---

ITとHR部門がEメールコミュニケーションと社員向けポータルを構築するためのリソースをダウンロードする  
[ダウンロード ↓](#)

社員とIT部門がApple製品をさらに活用するために役立つ様々なリソースを見つける  
[さらに詳しく ➤](#)

## まとめ

職場へのテクノロジー導入が進む中で、デバイスとプラットフォームを管理するIT部門の役割はさらに難しさを増しています。環境が複雑になるにつれて、必要なソリューションもますます複雑化しています。しかし、新しいモデルを使って社員にアクセスを提供すれば、これまでにないシンプルな方法でAppleを標準化することができます。

Appleのテクノロジーは、社員がいつ、どこで、どのような働き方を望む場合でも、すばやくスムーズにコラボレーションと共有ができるよう支援します。会社に合わせたApple at Workプログラムを導入すれば、Appleを幅広く承認し、採用することができます。また、社員に自身とビジネスの新しい可能性を開く力を与えることにもつながります。

ベストプラクティスと共に、Appleの担当チーム、販売店チーム、パートナーチームのサポートを活用することが、組織へのプログラム導入の成功につながります。ぜひ、この取り組みを今すぐ始めてください。





1. PwC『Millennials at work: Reshaping the workplace.』(2011年)
2. Jamf『従業員選択プログラムに関する調査』(2016年)
3. Genster『Workplace Survey / Harvard Business Review』(2013年)
4. IBM『Mac@IBM, Zero to 30,000 in 6 Months.』(2015年)